

平成26年5月19日

平成26年度農作物病虫害発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病虫害防除所

1. 病虫害名 : チャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai
2. 発生物種 : チャ、ヒサカキ
3. 発生地域 : 西牟婁郡白浜町
4. 発生確認の経過
  - 1) 平成26年3月、西牟婁郡白浜町の一部のチャ園においてすす病が発生し、葉裏にコナジラミ類幼虫が多数寄生していた。これらの寄生葉を採取し、(独)野菜茶業研究所に同定を依頼したところ、県内で未発生のチャトゲコナジラミであることが確認された。

また、発生地域では、一部のヒサカキにも寄生がみられた。
  - 2) 本種は平成16年に京都府のチャで初めて確認されて以降、国内各地から報告され、平成26年5月15日現在、滋賀県や奈良県、三重県、徳島県など本県周辺を含む29都府県において発生が確認されている。

本種は当初ミカントゲコナジラミのチャ系統とされていたが、平成23年3月にチャトゲコナジラミとして新種記載された。
5. 形態
  - 1) 成虫の体長は1.1～1.3mm、前翅は紫褐色で9個の不整形の白斑がある。
  - 2) 孵化幼虫は淡黄色で、2～4齢幼虫は光沢のある黒色の楕円形で周囲と背面に多数の刺毛がある。体長は0.2～1.3mm、周囲は白色のロウ物質で囲まれる。
  - 3) 卵は長さ約0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄がある。
6. 発生生態と被害
  - 1) 成虫及び幼虫が葉を吸汁加害するほか、排泄された甘露によりすす病が発生する。

また、成虫の発生が茶葉の摘採期と重なるため、作業者の目や口に成虫が入り込むことがある。
  - 2) 幼虫は葉裏に寄生し、孵化直後は歩行するが、その後固着寄生し移動しない。1～4齢幼虫を経て成虫になる。年間3～4世代発生し、越冬は主に3齢及び4齢幼虫で行う。
  - 3) 成虫の寿命は約2～4日と短い、雌成虫は羽化後間もなく交尾し主に葉裏に産卵する。飛行能力は高くないが風に乗って長距離移動が可能である。
  - 4) 寄生植物は、チャの他、ヤブツバキ、サザンカ、サカキ、ヒサカキ、シキミ等である。

## 7. 防除対策

- 1) 成虫は新葉に集まり、幼虫はすそ部の葉裏で発生が多い。成虫は黄色粘着トラップに誘殺されるため、これを設置し発生状況の確認に努める。
- 2) 防除適期は若齢幼虫発生期であるので、成虫の発生が減少した頃に薬剤による防除を行う。また、冬期はマシン油乳剤による防除を励行する（表）。
- 3) 深刈り剪枝を行い、幼虫の寄生した枝葉を除去する。刈り落とした枝葉は、発生源となるため、放置せずに土中埋設などの方法で適切に処分する。
- 4) 未発生地では既発生地域からの苗による持ち込みに注意する。

## 8. 参考資料

「チャの新害虫チャトゲコナジラムの防除マニュアル」

農林水産省 web ページ (<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/index.html>)

表 チャのチャトゲコナジラムに登録のある薬剤(平成26年5月15日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	
コテツフロアブル	2,000	摘採7日前まで	2回以内	
ダントツ水溶剤	2,000	摘採7日前まで	1回	
ベニカ水溶剤	2,000	摘採7日前まで	1回	
ダニゲッターフロアブル	2,000	摘採7日前まで	1回	
コルト顆粒水和剤	3,000	摘採7日前まで	2回以内	
ディアナSC	2,500～5,000	摘採7日前まで	1回	
ロディー乳剤	1,000～2,000	摘採7日前まで	1回	
アプロード水和剤	1,000	摘採14日前まで	2回以内	
ハチハチ乳剤	1,000	摘採14日前まで	1回	
ハチハチフロアブル	1,000	摘採14日前まで	1回	
アプロードエースフロアブル	1,000	摘採21日前まで	1回	
ランネット45DF	1,000	摘採21日前まで	2回以内	
マシン油乳剤	トモノールS	100～150	5～9月	-
		50～100	10～3月	-
	ラビサンスプレー	100～150	5～9月	-
		75	10～3月	-
	アタックオイル	100	4～9月	-
		50～100	10～3月	-
スプレーオイル	50	10～3月	-	

\* 農薬は、ラベルに記載された事項をよく確認して使用すること。

和歌山県農作物病害虫防除所  
 担当：岩橋・岡本  
 電話 0736-64-2300